

## アマチュアスポーツの発展を願って

会長 坂井敏夫

古代のオリンピック大会が完結して、現代オリンピック競技会が発足、当初討論されたオリンピックの開会式には、全世界の国々が総て参列参加させるよう、戦争国同士は休戦して整列させるように申し合わせたが、実質は不完全であった。領土の取得は、戦争の結果だけで決定されている状態であった。

戦争が何より優先したのである。

日本国は昭和20年8月15日以前までは、戦勝国としての経験しかなかったから、この敗戦は初めての経験であった。従って領土返還運動は、常識を超えた振る舞いが多かった。

例えば、ロシアの領事館がある札幌市のその領事館前で、北方領土の返還を大声で叫んだり、ビラを配布したり、更に「北方領土から帰れ」と叫んだりしたことは、敗戦国としては過言ではないか……

敗戦国日本は、あの終戦宣言以来のソ連の終戦過程を知るものは、一様に大不満ではないのか？シベリア開拓のために、何万人もの元日本兵をシベリアへ送り込んで、僅かな食料しか与えず、酷寒時にも十分な衣類も与えない、不十分な休養しか与えないで、重労働を強制し、死亡した日本兵は幾万人にもなった事を考えれば、領事館前で大きな声で「ロシアは直ちに本国へ帰れ」と叫びたくもなるだろう。

私自身が冷静に考えたのは、日本人のロシアに対する敵対行為は、日本の外務省前で実行すべきではなかったかと痛感している……

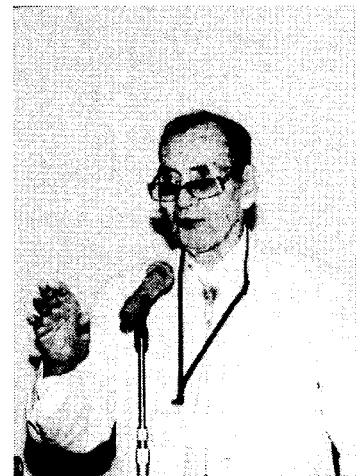
……………

第7代IOC委員長キラニン氏がオリンピック憲章から、アマチュアの文言を削除した。

プロだけの参加を主張したことの間違いも判

然となった。参加選手のアマ・プロの判定や選手の出場の認否の決定も、その選手の属する国と、そのスポーツ団体であることが後刻確認された。札幌で開催された冬季オリンピック大会で、第6代IOC会長のブランデー氏がオーストリーのアルペン選手であったカールシュランツエ氏をプロと判定して、出場を断ったことは、行き過ぎの判定であったことが後刻判然とした。

2010年の現在は、アマ・プロが一緒に競技することになっているが21世紀の問題として、別々に区別する方向の大会運営も考えられるのである。障害者オリンピックも、盛大に実施すべき時代ではないだろうか。



……………プロフィール……………

### ◆ファン・アントニオ・サマランチ氏◆

IOC前会長。2010年4月21日死去 89歳  
スペインバルセロナ出身。1980年～2001年まで21年間IOC会長を務め、退任後は名誉会長としてIOCの借り上げた小型ジェット機で、世界の隅々まで周り、五輪運動への理解者を増やす労力を続けた。